

## 第4回 リニアやまなしビジョン（仮称）検討会議 議事録

日時：令和2年 2月 5日（水）14:00～16:00

場所：都道府県会館401会議室

◆議題：リニアやまなしビジョン（素案）について

◆出席者：【議長】

山梨県知事

【検討会議委員】 ※敬称略

東 博暢 (株)日本総合研究所 主席研究員

恩藏 直人 早稲田大学 常任理事・教授

加藤 晋 国立研究開発法人産業技術総合研究所 首席研究員

佐々木 邦明 早稲田大学 教授

鈴木 克宗 (一財)道路新産業開発機構 業務執行理事

高橋 宰 元 野村不動産(株) 副社長

武田 文男 政策研究大学院大学 防災・危機管理コースディレクター

田中 道昭 立教大学ビジネススクール 教授

廣川 克也 (一財)SFCフォーラム 事務局長

美原 融 東洋大学大学院 客員教授

廻 洋子 敬愛大学 特任教授

山本 和志 元国土交通省 技官

【事務局】

リニア交通局長、リニア推進監、リニア交通局次長、リニア交通局技監、

リニア推進課長、リニア企画監

知事政策補佐官、産業労働部次長、防災局次長、県土整備部理事、県土整備部技監

◆会議次第：

- 1 開会
- 2 知事挨拶
- 3 議事  
リニアやまなしビジョン（素案）について
- 4 閉会

◆内 容 :

1 開会

**三井リニア交通局長**

- ・第4回リニアやまなしビジョン検討会議を開催します。
- ・本日はご多忙のところ、委員の皆様にはご出席いただき、誠にありがとうございます。

2 知事挨拶

**長崎知事**

- ・大変お忙しいところ、ご出席賜りありがとうございます。
- ・前回の検討内容を踏まえて、その後、実務担当者によるWGにおいて、リニアがある山梨が目指す姿と実現に向けた取り組みに関して、想定されるターゲットのうち、突破口となり得る分野、あるいはその取り組みの手順などについてご議論頂いた。
- ・今回の検討会議においては、今後お示しするビジョンの素案について、これまでのご意見を踏まえ、整理したものを今回お示ししている。これに関しての意見を賜りたい。
- ・頂いた意見を踏まえて、再度手を入れ、これをもってビジョン案として、今後、県内の各市町村、経済団体、議会、さらにはパブリックコメントという形で県民の皆さんにお示しし、意見を伺いたい。
- ・是非、委員の先生方におかれては、このビジョンの策定に向けて、なお引き続きの力添えを頂けるようお願いするとともに、本日活発にご議論いただくよう、改めてお願い申し上げます。

3 議事

○リニアやまなしビジョン（素案）について

[資料1について事務局より説明]

**委員 [これまでのワーキンググループでの検討状況について報告・総括意見]**

- ・全5回のWGを実施して、検討会議の皆さんの意見も踏まえた上で色々と議論をして、事務局の尽力もあって考え方を整理したものがお手元の資料である。若干補足説明をしたい。
- ・WGでは、「全体の中のビジョンの位置づけ」について、毎回議論を行った。「山梨県には全体計画として総合計画があり、このビジョンはそのなかの1つの部門計画なのだ」ということがなかなか分かりづらい。
- ・例えば、先端技術に関する議論の前提として、生活環境はどうするのか、良い人材を雇うためにはどうするのか、という話があるが、優先劣後の問題も含め、これから県民や第三者に説明しようとするとき、全体計画のなかのビジョンの位置づけを明確にして説明しないとなかなか理解してくれないのではないかと、ということが何度か話題にあがった。
- ・核になるのが第5章であるが、リニアを核として、あるいは契機として山梨を変えていこうというメッセージ性、あるいは山梨らしさ、これを明確に位置づけるアグレッシブな突破口を設けようという考え方になっている。
- ・テストベッドがそのコンセプトになるわけであるが、この考えに至ったのは、山梨県には明確

なシーズがあり、ニーズもある。社会的なニーズと共に、山梨県を舞台に様々な動きがある訳であり、それを上手く捉えることによって、この突破口をベースにしながら将来を考える。リニアというのはその契機になる、という考え方から成功体験を強かに推し進める取り組みをやってみてはどうか、というのが、第5章のメッセージになる。

- ・もっとも、ビジョンというものは実行がなければ意味がないわけであり、行政としては書きにくかったのかもしれないが、一番心配しているのはスピード感である。取り組むのは先端技術であり、今までの行政の手続きでゆっくりやろうということであれば、到底世の中の動きについていけない。決定した取り組みは即刻動きながら、ありとあらゆるリソースを使って山梨の魅力をどのように伝えてゆくのか、何が制約なのか考えなければならない。例えばプロモーションにしても、今までの行政のやり方では駄目だと思う。
- ・最初に何が課題なのかを考え、制約要因があるのだったら、「県が一丸となって排除します」くらいの、企業のモチベーションを湧き起こすためのアプローチが必要であろう
- ・P15のステップは論理的なステップであって、最初の段階から課題を把握しつつ、課題を解決するために「県としてはこういうこともできる」というメッセージを、企業のインセンティブを湧き起こす一つの手段として使ってはどうか、という考え方もある。
- ・スピード感を持つことや、どういう実験をするのか、最終的に方向性が決まった場合どのように実行するか、ということを示すのは結構大変。こうしたことはまだ決まっていないため書かれていないが、決まったらビジョンの実現体制にかなり精緻な取り組みとスピード感が必要であるという印象を持った。
- ・WGでは、「前向きにアグレッシブに考えよう」という考え方を基本としている。やはり山梨県においても、チャレンジのないところにイノベーションはないだろう、というのがWGメンバーの統一的な考え方であった。
- ・リニアの実現というのは、まさに千載一遇のチャンスである。これを契機にあらゆるリソースを使って、山梨県を活性化できるという夢を県民に与えるようなビジョンであってほしい。ビジョンの内容が決まったら、是非とも県民、知事を先頭に、県庁をあげてビジョンの実現に邁進して頂きたい。

#### 議長（知事）

- ・ここからは、ビジョン案の中身について議論を交わしたい。議事の進行にあたり、便宜上複数のパートに分割して、それぞれのパート毎に委員の先生方からご意見をいただく形で進めて参りたい。はじめに、1章から4章までの、ビジョン策定の趣旨、位置づけ、目的、開業効果、山梨県の強み・弱みに関する部分の前段部分について、内容が適切かどうか、補足すべき点等ご意見を賜りたい

#### 委員

- ・4ページに劇的な時間短縮ということが書かれているが、時間短縮には仕事の面、生活の面という2つの面がある。
- ・生活の面でいえば、南アルプスを背景とした、第2の軽井沢とすることが可能ではないか、そして、東京から来る人の住むライフスタイルも変わるのではないかという話が前回あった。

- ・ もう一つ、一番考えていかななくてはいけないのは、リニア駅前にオフィスを誘致することだと思う。この5年間で、かなりオフィスの需要やニーズが変わってきている。例えば、アマゾンやグーグル、アップルは、東京の大崎駅などに3,000坪という単位で土地を借りている。彼らが将来的に首都直下型地震などを想定してバックオフィス・バッファを持つことを考えたときに、時間短縮と災害がないということで、リニア駅前や山梨が最適だとPRできないだろうか。そういう大きい単位のオフィスがここに集まってくると、周辺の関連した企業も進出してくるので、そういった企業に対しても、知事がトップ外交されるターゲットとして、ヒアリングしたらどうか。
- ・ 30年ほど前であるが、東京で地震があったときのために、大阪の南港に野村総研が電子計算センターを作ったが、今考えると、リスクの分散になっていなかったと感じる。山梨は、名古屋から45分、東京から25分と近いうえに、大都市のど真ん中としての需要を積極的に打ち出すことができるので、それを深く追求していくチャンスではないか。

#### 議長（知事）

- ・ まだご意見はあるかもしれないが、5章の本県の目指す姿と実現に向けた取り組みに進みたい。5章について、この章の内容を補完するため、民間企業などを対象としたヒアリング調査を実施したので、ご意見を頂く前に、まずこのヒアリング調査結果をご紹介します。

[資料2について事務局より説明]

#### 議長（知事）

- ・ それでは、第5章について議論を賜ればと思う。

#### 委員

- ・ 目指す姿と実現に向けた取り組みの中の8ページ以降の、山梨での地域特性を活かしたテストベッドの各分野に関連して、国での制度支援の取り組みなどを紹介したい。こういった、国の予算制度そのものを活用することで、少しでもスピード感を持った進め方ができれば、ということでご紹介する。
- ・ 1月早々、民間企業、トヨタ社として、静岡県裾野市での実証都市建設に向けた公表がされている。一方、国の取り組みとして、Society5.0の取り組みを踏まえて、スマートなまちづくりを念頭に置いて、地域のニーズと民間のシーズを組み合わせた、官民コンソーシアム体制のビジネスモデルの構築とその実装への支援、そのほか、IoT等のセンシング技術と都市インフラの内装化をするため、都市インフラ関係において、例えば公共交通、交通結節点の都市交通システムの整備と一体的に行われる、自動運転バスの社会実証に向けた社会実験等についても支援がある。
- ・ 既に、モデル事業の実施に向かっている自治体を主体としたコンソーシアム・協議会関係については、2019年8月8日付で国土交通省の「スマートシティ官民連携プラットフォームの始動」をタイトルとするプレスリリースにて、内容については確認いただきたい。また、既に検討が進んでいる先行モデルプロジェクトに関しては、2019年5月31日付「スマートシティモデル

事業「いよいよ始動」というタイトルのプレスリリースを確認いただきたい。

- ・なお、社会資本に関する国での制度内容については、昨年12月に予算査定が終わったところであり、新しい年度に向けてちょうど各省では準備をしているところである。今現在、確認して頂くためには、12月20日付、国土交通省都市局の令和2年度関係予算の決定概要を見て頂くと、新たな拡大の内容を含めて、支援制度がいくつか紹介されているので、これを確認いただきたい。
- ・他の中間駅との比較において、都心から所要時間わずか25分の位置において、首都圏では味わえない、緑豊かな風景を活かした地域資源を活用するという考え方のもとに、農業分野においても支援がある。この分野においては、「スマート農業総合推進対策事業」として、先端技術の実証プロジェクトや実装、普及に向けた環境整備に対応した支援を持っている。例えば、自動走行農機の導入や、利用に対応した農地整備などの基盤整備に関しても支援を持っている。併せて、6次産業化としての事業化ビジネスの推進や農泊と連携した観光消費の促進の対応についても、交付金等の支援がある。これについても、先ほどと同様に制度拡大内容も含めて、12月公表された、「令和2年度 農林水産の予算決定の概要」を見て頂ければと思う。
- ・最後に、14ページのライフサイエンスの分野において、検討の趣旨のとおり、確かに医療現場や健康・保健、健診機関、学校等の各現場においては、県民の健康に直結する多くのデータが集積されていると考える。しかもこれらは、トータルのデータを専門的に分類あるいは解析することにより、ビッグデータの活用において、健康指導や高度な予防医療の実施方策として、有効な考え方である。すでに新潟県では、健康、医療、介護の各データの連携によりプロジェクトを立ち上げ、県民医療、その他の各団体や企業等が活用することによって、「県民の健康寿命を延ばし、いつまでも自分らしく暮らせる社会」の構築を目指すこととしているようである。一方、デジタル改革により、民間においてもモバイルアプリの活用により、個人や企業向けにサポートがされている。新潟県の事例においては「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤プロジェクト」を確認いただくと同時に、民間企業の動きについては日本総研の2019年レビューを確認いただきたい。

## 委員

- ・リニアやまなしビジョンということで、最終的にビジョン自体を明文化して出そうということは素晴らしい。
- ・7ページに「テストベッドを突破口に他に先んじた未来社会を実現している山梨」と書かれているが、戦略の観点からコメントすると、そもそもビジョンを作るのにクライテリア（判断基準）はいくつもあるが、一番シンプルな例の一つとして「強く、好ましく、ユニーク」をご紹介させていただく。「強く」というのはインパクトがあるかどうか、「好ましい」というのは実際に共感されるかどうか、「ユニーク」は独自性があるかどうかということだ。
- ・先ほどの文章について、山梨を「千葉」に置き換えて読ませて頂くので、山梨県人として応援したくなるかで聞いていただきたいが、「テストベッドを突破口に他に先んじた未来社会を実装している千葉」と聞いたときに、恐らく山梨県の人が応援しようと思わないだろう。この中で言うと、「他に先んじた」というところが、「好ましい」に反してしまっている。例えば、「他に～」を「世界の人々と共に未来社会を実装」とか、「魅力ある未来社会」とか、「豊かな未来社会

とかに変えてはどうか。対案はともかく、「他に先んじた」は、山梨の人間からは「そうだよね」となるが、山梨県以外の出身の企業の人が見たときに共感が得られないワードになっている。

- ・今はむしろ、「オープンプラットフォームで一緒に作っていこう」という共創の作り方でないとうまくいかない。先ほどトヨタのコネクティッド・シティの例があがったが、発表のあったCESでは、赤い絨毯をわざわざ敷いて、誰でもウェルカムにしていた。オープンにしないとうまくいかないし、それをビジョンに盛り込む必要がある。「ほかに先んじた」という部分をむしろ、「世界の人々と共に」というようなワーディングとするのはどうか。

## 委員

- ・11 ページから 14 ページにかけて、いくつかテーマを具体的に挙げているが、まさにスタートアップが得意な領域だろう。スピード感という意味でも、先端的な技術の事業化に取り組んでいるという意味でも、まさにぴったりなものであり、かつ、割と生活に密着したテーマとなっている。「宇宙」や「深海」と言われると、県民レベルだと手触り感が感じられないこともあるかと思うが、移動弱者の問題、獣害の問題、ロボットなどは、身近に感じられるテーマで、おそらく、「自分ごと」化しやすく、自分たちの問題、自分たちが取り組むべきテーマとして考えやすいものと思う。そういう意味で、高校生や大学生に、技術教育も含めた教育の機会を提供できるといいのだろうと感じた。
- ・ヒアリング結果や全体的なペーパーを拝見すると、「外から持ってくる」、「誘致」ということに重きが置かれている印象だが、県民の方がこれを読んだときに、全部外から持ってきて、自分たちがここにどう関わるのかという点で、少し疎外感を感じるのではないか。もちろん、外から持ってくるものがあるおかげで豊かになったり、オープンプラットフォームで色々なシナジーが生まれるというのはあると思うが、目的としては、県民の豊かさということがまずは大きな理念、目標だと思うので、県内の方も主役であり、関わりがあることであり、皆で実現していくものだ、ということが何か伝わるようなメッセージがもう少しあるといいという印象を持った。

## 委員

- ・1 つめは、9 ページから 14 ページについて、優先的に取り組む分野がいくつか出されているが、改めて我々が考えなくてはいけないのは、この分野でリニアが本当に有効に働く部分はどこか、つまり鍵になる部分はどこか、ということだ。
- ・東京-名古屋間の連結性が強まり、リニアを使って技術者が迅速に移動できるようになるので、クリーンエネルギーやモビリティ、ロボットというのは関連がありそうだと思う。しかし、鳥獣被害や陸上養殖、ライフサイエンスに関しては、山梨にとって重要な取り組みだとは思ふものの、リニアが有効に働くテーマかどうかを慎重に考えるべきだ。
- ・2 つめに、クリーンエネルギーやモビリティ、ロボットなどは、それぞれを単発で検討するのではなくて、横のシナジーを考えてほしい。水素というキーワードでは、モビリティも入るしロボットもそうかもしれない。例えば、スケールは小さいが北九州で一部実験的にやっている「水素タウン」を、もう少し大きな規模にして、モビリティとロボットを導入するなど、独自の枠組みにして山梨で検討できないか。

- ・最後に、5Gについてであるが、直近10年ほどはこのシナリオでいけるが、本格的に5Gの時代になると、移動を必要としなくなるのではないかと。そうしたときに、「都心から何分で移動できる」と言っても、世の中のストーリーが変わってしまうので、結局、人間がその場に行かなくてはならないようなものが何かを改めて考えておかないと、2040年のシナリオとしては違和感がでてくるのではないかと。10年、甘く見て15年ぐらいまでは今回の提案で行けるが、その先はクエスチョンマークなので、その先まで考えておいた方がいい。

## 委員

- ・よくまとまっているが、「強み・弱み」の部分で、強みに関しては、5章以降の取り組みで読み取れるが、弱みに対してどうしていくかをもう少し見えるようにしてほしい。情報発信力の不足に対しては、リニアが来て人を呼び込むということも含めて、そこから先も含めた工夫がもっとあってもよいのではないかと。
- ・5章でテストベッドの分野が色々書いてあるが、クリーンエネルギー分野、モビリティ分野、ロボット分野、AI・IoTなど分野を「技術」で切り取っていて、一般的に分かりづらいのではないかと。例えば、ロボット分野で配送だと、通常は「交通・物流分野」という言い方をする。ロボット分野でアグリテックとなっているが、IoTの話も含めて、アグリテックと陸上養殖で、「農水産分野」ではないかと。書き方も含めて分かりにくい部分がある。そういう「分野」に対して、最先端の技術のテストベッドを作る、という書きの方が分かり易いだろう。
- ・山梨の観光資源や宝飾等の産業資源の分野を活かす取り組みについて、もう少し光を当ててもよいのではないかと。特に観光に関しては、情報発信の不足が弱みであることから、まだまだ伸びると考える。そういった分野に対して、リニアが来たから、あるいはリニアが来る前から、どういう風に情報発信するか。MaaSプラス $\alpha$ で、5Gなど最先端技術も取り入れて、網を作って発信するような取り組みも入れた方がよいのではないかと。

## 委員

- ・7ページの目指す姿について、「未来社会」と言ったときに、「未来社会」とはなんなのか、となり、全体的にぼやっとしてしまう印象。テストベッドはあくまで手段でしかないし、そもそも我々が何をイメージしているかというのは、あまりに概念が広いので、ある程度突き詰めたらどうか。
- ・例えば、健康寿命を徹底的に突き詰めればいい。「未来社会」というと、今世の中はSociety5.0で「人間中心」と言っている。万博でも「人間の幸福とはなにか」というテーマで展示をするが、その内容は、身体が健康で、加えてクリエイティブな生活をし、働き方や人生観が変わっていく世界について。そうした、健康寿命の分野で、最先端の地方都市を目指すというような話をしてもよい。
- ・豊田章男社長がリーダーとして、ウーブン・シティを発表されたときに、富士山を前面に出して、グローバルなところでプロモーションを行っており、インパクトとしてはかなり強烈だった。オープンにして全てを巻き込む手法を取っている。その場で何かがあったわけではなく、基本的にビジョンを出して「これからだ」と言っただけだが、あれはある種ビジョンの出し方としては分かり易い。

- ・世界のあらゆるところでスマートシティが叫ばれているが、都市部の議論が多いので「地方の人々の今後の本当の豊かな生活を考えたときのコンセプトは、山梨で作る」と言い切るくらいでもよい。そのときに、健康寿命が一番だということも打ち出せるのではないかと。
- ・よく似たことを浜松市長とも話した。浜松市は幸福度が今ナンバーワンなので、それを突き詰めていく、ずっと幸福度ナンバーワンでいく、とした方が分かり易いという話をしている。そういう何か強いところを突き詰めていって、山梨は次の次元に行くのだということがメッセージで伝わると、「そうなのか」と思いやすい。
- ・その中で優先的に取り組む分野をどう整理するかという問題はあるが、恐らくリニアが出来た頃に、今規定されている産業構造が変わっていく前提で考えると、エネルギー業界なども変わってくると思われる。今はサーキュラーエコノミー（循環型経済）と言われていて、サーキュラーエコノミーを持続する都市とするためには、どういう分野間融合が必要かということがテーマになってきている。その中で、エネルギー業界は今後どう変わっていくだろうか。例えば、エネルギーが有事の際の人々のライフラインをどう支えるかという話でいくと、北海道の停電の時には、透析患者など人命に一番関わるところに電力を回さないといけないという話があった。「実は、車いすにも電源を挿すところがあり、身体障害者がスマートフォンを充電できて、東京の子供に連絡できてよかったという話が、車いすのスタートアップに連絡が来た」というように、生活の仕方から働き方から全部変わってくる。そうしたときに、優先的に取り組む分野も、全体のコンセプトの流れの中で整理するといいたい。
- ・そういう意味では、最初のクリーンエネルギーは良いのだが、出し過ぎると若干平成の香りがしてしまう。令和に入った時のクリーンエネルギーはどうなのか、サーキュラーエコノミーの文脈で整理ができるであろう。
- ・テストベッドを通じて、自ら新しい産業分野もどんどん作っていくのだというコンセプトだと、スタートアップも共感しやすい。
- ・ドローンや UGV と書いてあるが、電波法が改正して、長距離無線給電もトライしようとのチャレンジが総務省でされている。そうしたときに、今後の街のマネジメントも、山梨でどう考えていくかは盛り込んでいくとよいのではないかと。
- ・分野としてライフサイエンスも書かれているが、強いところを伸ばすというのは、メッセージとして分かりやすい。強いところはネットワーク化して取り込んでいくべき。静岡との医療機器連携の話もあるが、「徹底的に健康寿命 No.1 でいくので、山梨に集まれ。強いところは全部巻き込んで取り組む。大阪とも静岡とも組む」という形で、一般住民も企業住民も健康で豊かな暮らしができて、移動したければリニアでさっと東京に行けるとというのが目指す将来の姿だ。
- ・5Gがあれば家で働くので、基本的には空間的な縛りから人々はどんどん解放される流れとなっている。職業と生活の分離がなくなる。そういった世界が実現したときに、人々は何が幸せかということを考え、山梨からテストベッドを通じて「未来の人々の生活のデザインを世界に先駆けて富士の麓で出す」というコンセプトを出すのであれば、エッジの尖ったものが必要だ。

## 委員

- ・5章のところは、これまでの議論をまとめて頂き、内容としては非常に望ましい。分野のところはクリーンエネルギーも含めていいと思うが、ひとつ気になるところは、取り組み手順のどこ

ろだ。先ほども指摘があったが、「外から呼んでくること」に注力している取り組みの手順という感じがする。

- ・「県としてどういうことを提供することで、スタートアップを呼び込めるか」ということについて、もう少し具体的な部分を詰めて頂きたい。ヒアリング調査のモビリティ関連の部分にも書かれているが、色々な研究等をするときには、どういうデータを提供してもらえるか、どういうデータが使えるかが非常にネックになることが多い。例えば、どこにどういう道路データがあって、それを全部使って人がどう動いているか把握して、それをライフサイエンスにどう繋げるか、というように、データがどのくらい使えるかということは重要な情報だ。データが使えることで実験ができるようになる場合もある。各種データをどうやってオープンで使えるかがライフサイエンスにも重要に関わってくる。ビジョンの取り組みの中で、そういったところはすぐに取り組むことができると思うので、スピード感も含めてはじめて頂きたい。
- ・もう一つは、データの話とも関係するが、例えば県民の意識にどう働きかけるかということにも繋げて頂きたいということ。ライフサイエンスに関して、県民が実験に参加することがないと、「全く関係ないのでデータ提供しないよ」となり進まなくなる。県民の方々にこのビジョンをどうアピールしていったら、どう巻き込んでいくのか、ということも是非打ち出して欲しい。

## 委員

- ・よくまとめて頂いて、最初の頃よりずっと良くなった。この資料は送り手側の整理で、これから東京などの色々な企業にこうした話をするための冊子にする、と考えることが大事。これでいろいろな人から、いろいろな意見をもらうためのツールとして、割り切って考えたらよいのではないか。やり取りを通じて適宜修正していけばよい。
- ・セールスポイントは、4 ページの部分。単に 25 分と書くのではなく、今新宿から山梨まで 1 時間半かかるのが 25 分になると見せたほうがインパクトがある。品川から 25 分とすると、この地域と同じ、というような見せ方をすると、見た人は驚くのではないか。
- ・それと同じように、リニア駅から県内へのネットワークの話があるが、県の中でも時間短縮効果がある。東京から 25 分で山梨に来て、そこから県内の移動が 20 分ですめば、45 分で目的地に行けるということになる。「県内にも時間短縮効果があるが、その前提として、ネットワークをある程度整備しなくてはならない」という見せ方にすると、7 章に意味合いが出てくる。
- ・5G も 10 年経てば今使っている 4G が全て普通に 5G になる。通信がよくなれば移動の機会は少なくなるかもしれないが、絶対にゼロにはならない。リニアの場合は東京から 25 分で行けるようになり、バーチャルと現実の世界が近くなる。「交通網の整備と同じように、5G もリニア同様に必要なものだ」という見せ方を最初の方でしておく、7 章の記述が生きてくるのではないか。
- ・ひとつ気になったのは、駅のところに浸水危険があるとのことだが、確率年は何のくらいで、どのくらいの深さなのかということ。確率年が大きく、また浸水の程度が少ないのであれば、今の段階であえて書く必要があるとは思わない。それは、立地をしようと考えた企業が、実際に現地の設計に入った段階で盛り土を少し高くするとかの対策をする時に、県と打ち合わせをすれば済む話ではないか。

## 委員

- ・5章の目指す姿と実現に向けた取り組みであるが、「リニアがある山梨の目指す姿」という部分の、リニア感が薄い。まちづくりという感じはするが、リニアとの関係がもう少し強くなればいい。なぜかという、全ての交通需要は「本源的需要」と「派生需要」に分けられるが、ビジネスはすべて「派生需要」だからである。
- ・他の委員からも指摘があったように、仕事上の移動の機会と必要性が今よりは少なくなっていくということを考えると、やはり「本源的需要」をある程度増やしていかなくてはいけない。「本源的需要」において、観光の部分は外せないが、その部分が少し薄い。「本源的需要」が前に出るような内容が書いてあってもいい。
- ・未来や新しいことは、すごく速く消化されてしまい、5年も経てば古くなってしまふことはよくある。淡々と進め、古いものも大事にしていくようなところが観光にはあるので、「本源的需要」を目指す姿のところにもう少し書き加えてもいいのではないか。
- ・時代の変化が加速しているので、後々ソフト面でフレキシブルに変えやすいようにしておいた方がいい。

## 議長（知事）

- ・次に、6章、7章、8章を合わせて議論をして参りたい。

## 委員

- ・第6章で、防災の関連があるが、議論になった国のバックアップ拠点の構想は、リニアがある山梨において、その実現の可能性はあるのではないかと。ただ、その前提として、リニアが災害時にもきちんと活用できる、災害に強い高速交通であるという整備をしていただくことが大事だ。山梨県自身が、防災力をしっかり強化して、安全な地域であるということが、防災バックアップ機能をもつ前提だ。
- ・そういう意味では、ただ防災バックアップ拠点が必要だというだけでなく、前提となるリニアの災害時の安全性、山梨県という地域の防災力強化が示されているということが必要であり、それについてしっかりとこのビジョンで書いているので、基本的な考え方として適切なものとなっていると考える。

## 議長（知事）

- ・冒頭のお話にも関連するが、今回ご議論頂いたものでビジョンとしてまとめて、県の総合計画の部門計画とするが、本検討会議で作成したビジョンを元に、必要に応じて総合計画自体も修正すべきところは修正をして、このビジョンを踏まえて、全体像を再度整理していきたい。

## 委員

- ・今回のビジョンの中に、「テストベッド」という言葉が入っているので、重要だと思い発言する。分野について、かなりテクノロジー寄りの内容の記述が多いが、実証実験、つまりテストベッド段階のもの、社会実装の段階に入っているもの、あるいはもっと先に進んでいて既に実施可能で、純粋に民間の会社が事業としてやるかやらないかという段階になっているもの、という

3つの段階が混在しているように見受けられる。

- ・例えば、「AI・IoTの鳥獣被害対策をセンサーで」というところは、県がお金を出して、やるかやらないかの話だけで、テクノロジー的には既に可能なものであり、そういう意味では、事業としてはテストベッドというところには合致しない。
- ・モビリティのところ、「AIタクシーやシャトルバス運行」とあるが、トヨタ自動車では、今年のオリンピックからイーパレットを特定地域で走らせるということを、既定路線として動いている。それに合わせて、色々な都道府県が水面下で動いている。また、茨城県の境町では、1月28日に、4月から自動運転バスの「社会実装」をするという発表を先行して行っている。そういう意味では、モビリティの部分の記述などは10年位遅れた内容になってしまっているのので、書かれている内容がテストベッド・実証実験の段階なのか、社会実装の段階か、ただ単に事業者がやれば良い段階のものなのか、それを峻別して入れて頂きたい。

#### 委員

- ・リニアの駅からのシャトルバスの話で、身延線の小井川駅がでていますが、なぜ甲府駅の話は出て来ないのか。

#### 議長（知事）

- ・シャトルバスで、リニア駅と甲府駅は別途結ぶ話はあるが、ここでは特に強調したいのは、定時性が確保されるBRTを甲府駅まで結ぶこと比べて、小井川駅までの間ではリニアの高架下がそのまま専用道路として使えるため、きわめて容易にやれるのではないかという考え。

#### 委員

- ・そういう意味では分かるのだが、経済効果の面で甲府駅の方が大きいのではないか。朝夕の渋滞はすさまじいと認識している。リニア駅から手前に入るところには広い道路もあるし、その整備ができるのであれば、そちらの方がよいと思っていた。

#### 議長（知事）

- ・やろうとすると50年はかかる。お金が潤沢にあれば、全部土地を買えばいいが、それをやれば大変な時間がかかる。

#### 委員

- ・派生需要を作るという意味で、能登空港では、パスポートや証明書の発行を行う行政機関を入れたり、航空学校を作ったりしている。また、秩父に芦ヶ久保というところがあるが、道の駅が併設された鉄道駅がある。そのように、人を集めるような施設を駅や空港に作っていくというやり方もあるが、それは道路の流れで難しいのか。証明書の発行機関などを作っても、将来的にはもらいに出かける人はいなくなると思うので、これは近い将来の施策の話であるが、何かしらそこにこないといけないような施設を、行政としてリニア駅に移すことは可能なのか。

## 議長（知事）

- ・近くには、産業技術センターやアイメッセという県の展示施設があるので、色々な工夫をすることは可能だ。ファシリティ的には問題ない。
- ・ただ、県内の人にリニア駅を使ってもらうよりは、他所から来た人が使うことを想定している。
- ・近隣には、NEC や横河マニュファクチャリングなど様々な企業、工場があるので、そういった施設を作れば、県内の一定程度の人は間違いなく使うと思う。必要性がある場合はご提案のような対応は可能だ。

## 委員

- ・第6章に関して、既に承知の通りだと思うが、今般、本年1月の国土交通省主催の都市計画基本問題小委員会第16回報告事項の中で、防災・減災等のための都市計画法・都市再生特別措置法等の改正（案）の動きがあるようである。この委員会は、もとより平成29年2月から、都市構造における構造的な諸課題を検討している組織であるが、この1月においては、頻発・激甚化する自然災害に対応するために、災害ハザードエリアにおける開発抑制や立地適正化計画と防災との連携強化を図ることなどとして、これらは「安全なまちづくりのための総合的な対策を講ずる」ことを前提にしたものがあるが、現行の法律、並びに政省令の一部改正作業が進んでいる。正式には（案）の閣議決定の上、国会決議を待つことになる。こうした動きがある。  
＜※上記の法律・措置法等の一部改正（案）は、この後の2月7日付で閣議決定された。＞
- ・各論にはなるが、新駅周辺の基盤整備の検討に関して、例えば大規模な面的な造成や立体交差等の技術的な検討の際、浸水想定エリア内を検討対象とする場合、盛土等の基盤層はいたって不安定な層である。地質等の構成としては、地下水位の高い扇状堆積物がベースにあることが想定される。また、笛吹川から富士川に合流する河川域に沿っては、曽根丘陵活断層という断層帯域が存在するので、大地震時における影響メカニズムについても検討する必要がある。こういった難易度の高い検討を要することであるので、専門家を含めた検討が必要である。さらにハード面と併せて、ソフト面では近接する地元自治体とのリスクコミュニケーションを含めた様々な検討が必要であること。従前から重ねての助言であるが参考にさせていただきたい。

## 委員

- ・27ページにリニア駅の予定地が示されているが、左の方に南アルプス市がある。私たちから見て非常に響きのいい名前だ。アメリカのノースカロライナ州にチャペルヒルという町があるが、アメリカ人が住みたい町の常に上位に入る。市や町の名前は、実は物凄く大きな資産だ。資産価値の高い南アルプス市を上手く利用して、住みたい街日本ナンバーワンを打ち立てられるといい。東京都心にも名古屋にも近いので、富裕層が住んでくれる。
- ・今日の議論は、ほとんどがBtoBの話である。もう少し、BtoCのところも踏まえて欲しい。そこに例えば、ルレ・エ・シャトーに加盟している強羅花壇のような、高級な宿泊レストランが来たり、ミシュランレストランのような有名店が立地したり、地元ワインが美味しく飲めるところなど、そういう街づくりをしてほしい。BtoCの観点では、観光プラスまちを考えてほしい。

## 委員

- ・6章の防災は非常に重要だ。ヒアリングにもあるように、いざという時に防災拠点になるが、普段はどう使うかという二つの使い分けをうまく考えて頂けると非常にいい。構造的には難しいが、普段はコンベンションとして活用し、いざという時にはバックアップ施設になるなども含めて考えて頂きたい。
- ・浸水想定区域に駅ができるのは間違いないので、それを逆手にとって、浸水想定区域の都市開発というものをビジョンとして打ち出して頂けるといい。

## 委員

- ・8章の進捗管理のところ、柔軟に対応していくと書かれているが、今年度ビジョンを出すとして、今後改訂することがあるのかどうか。改訂されるのであれば、リニアやまなしビジョン2020とか、何年に作られたかを明確にしておいた方がいいと思った。IoTとか、AIなどは5年後にその言葉が残っているのかも分からない。そういった意味では、「この年に作ったビジョンでは、こういったことを切り口にして議論して作成された」ということを明らかにしておいた方がいいのでは。

## 議長（知事）

- ・ビジョン自体、状況に応じてどんどん改訂をしていくべきものとして考えていきたい。総合計画自体がそもそも改訂すべきものである。おっしゃる通りの主旨を踏まえていきたい。

## 委員

- ・8章の庁内体制についてだが、こういうプランは美しく作っても実行は難しい。国土形成計画のようにきれいな作文だけで終わってしまうのは望ましくない。スピード感を持ってということは何度も出ているが、色々な部局の寄せ集めで構成された推進体制では、みんなが責任を取らないということもありえるので、例えば、知事直轄の担当部署を作る方が、責任もはっきりするし、いいのではないか。また、1年や半年で交代しないようなチームで進めないといけない。

## 委員

- ・私自身、今年もCES（アメリカで開催される電子機器の見本市）でラスベガスに行っている。1月6日から日本企業の色々なことが変わった。コネクティッド・シティを豊田社長が発表して、CESの中では一番大胆なビジョンであった。社会実装のスピードでいうと、今までであれば3年後にやる、5年後にやるという発表だったが、来年着工すると発表している。そういう意味では、隣の静岡県で大胆なビジョンの社会実装がものすごいスピードで始まるので、テストベッドということでは迫力もない。
- ・コネクティッド・シティは、確実に静岡から他につなげようという構想がある。山梨でもやるということであるし、クリーンエネルギーもトヨタ自動車を想定されていると思うので、先行して話をし、コネクティッド・シティを山梨でも、というようにしたらどうか。
- ・テストベッドはもちろん良いと思うが、1月6日から明らかに日本企業のスピードが変わってきている。茨城の自動運転の社会実装の話もその辺に触発されていると思われる。如何に山梨

で社会実装を始めるか。事務局ももう少しスピードアップして頂きたい。テクノロジーの進捗状況が理解不足で資料が出来上がってしまっている。是非見直して頂きたい。

#### **委員**

- ・ 24 ページの「今後の取り組み」というところで、今後の基本方針が書かれているが、いざという時に、首都圏を守り、国全体を守るという意味で、防災のバックアップ拠点は大変重要だが、そのためにずっと待ち構えているということではなく、平常時は、むしろ県民の安心・安全のための県内の防災拠点として大いに活用すべき。
- ・ 一旦有事が発生すれば、国全体や首都圏に対しての防災バックアップができる施設がいい。そのためにも、新しい施設ばかり作るのではなく、既存の公共施設はもちろん、民間施設も活用する。それらの施設の平時の活用を有効にしながら、災害時には防災に活用できるという点に留意することが重要である。具体的にどのようなことをするかは、まさにこれからの課題であり、皆さんと一緒に知恵を出していきたい。

#### **議長（知事）**

- ・ 大変たくさん建設的な議論をいただいた。美原先生にビジョン修正案の確認をお願いしたい。

#### **委員**

- ・ 今日頂いた意見を中に取り入れるような方向で、微修正なり内容を変えていきたい。

#### **議長（知事）**

- ・ 先ほど申し上げたように、これは県の総合計画に取り込んで、また逆にこれに合わせて総合計画自体も見直す。実現するための政治的アジェンダに乗っかってくる。それぞれの委員から頂いた大変貴重な意見をもう一度整理をして、またお示ししたい。これで議論を閉めたい。

#### **事務局**

- ・ 以上をもちまして、第4回リニアやまなしビジョン検討会議を閉めさせていただく。
- ・ 策定に向けた今後の流れであるが、お話頂いたように、美原先生に修正をお願いし、案としてまとまったところで、県議会や県内経済団体各所等にもご意見いただいて、ビジョンとして参りたい。最終的なとりまとめたものについては、3月に検討会議に開くが、日程調整は事務局からさせていただきたい。